

# KAI-YAMA プロジェクト



## DATA

- 主な連携先・メンバー  
株式会社ほんまもん代表取締役 奥出一順氏
- 活動地域  
京都府京都市左京区久多
- 活動期間  
2019年度
- 活動資金  
関西大学地域連携活動に対する補助事業

## 活動の目的

- 1 「限界集落」である久多でフィールドワークを行い、山・川・食のシステムを勉強し、ハワイのシステムと6つの観点から比較する
- 2 比較して学んだことをZoomやSNSを駆使して協働でまとめポスター等にし、情報発信する

## 連携にいたる経緯

4年前に奥出氏から限界集落の抱える問題について伺い、大学生が地域の問題と一緒に考える機会になると考えた。以来、久多プロジェクトとして学生の有志が奥出氏と連携して地域の体験学習、雪かきなどさまざまな活動に携わっている。

## 活動内容

ハワイにある協定校Kapiolani Community Collegeの学生6名と久保田真弓ゼミ生15名が久多で3泊4日の生活体験を共にした。奥出氏から山・川・自然の恵みの循環についての説明を受け、近隣の山林や村を散策・観察などを行った。また、切りとった竹を利用して流しそうめんの土台やお箸を作ったり、毎朝世話をし採取した鶏の卵やショウガなどを利用した料理を作ることで、食との関連も実体験した。KAI-YAMA プロジェクトは、前述の久多プロジェクトが土台となっている。

上記の活動を通して学んだことを「持続可能な食に関する文化的習慣」「地元で作られた食べ物」「世代を通しての持続性」「持続可能な農業」「持続可能な食を支える最新技術」「環境保全の再構築」という6つの観点から日本の学生とハワイの学生が話し合い、それぞれの実情をまとめポスターにした。日本の学生は情報学部を、ハワイの学生は生物学を専門としており、互いの専門性の違いを活かして成果を取りまとめることになった。



## 活動の成果

- 1 梅田にあるグランフロント北館2階のナレッジキャピタルにおいて、活動の成果をまとめたポスターを展示
- 2 ハワイ大学主催の国際学会で活動成果を発表

## 今後の課題・目標

- 1 海外との国際交流学习は、学年歴の違いを考慮した計画、実行に移すための費用の確保などが課題となる。新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、出来ることを今後は検討していく

## 教員紹介



■ 総合情報学部 教授

久保田真弓  
Mayumi Kubota

専門は、コミュニケーション学、異文化コミュニケーション。ゼミでは、バングラデシュ、フィリピンなどで10日間ほどの国際交流学习を毎年実践しており、「体験」と「経験」を活かした異文化理解促進を目指している。特に、現地体験後の振り返り作業を重視し、経験的学びにつなげたいと思っている。